

秋の火災予防運動

11月26日から12月2日まで

使う火を消すまで離すな目と心

今年も十一月二十六日から十二月二日までの一週間「秋の全国火災予防運動」がくりひろげられます。これからは気象条件も変化しやすく、また暖房器具の使用で火災が起りやすい季節になります。寒くなると、一般家庭では石油ストーブ、こたつなどの暖房器具が使用されます。それにもなつて、暖房器具が原因の火災が急増しています。昭和五十年の暖房器具による火災では、ストーブによるものが最も多く、二千四百九十七件、ついでこたつによるもの七百六十一件となっています。また

今年一、二月だけでも、二十名以上の人が、暖房器具の取扱に不注意による火災で犠牲になりました。暖房器具には、その器具に応じた正しい使い方があります。取扱の使用書や注意書をよく読んで危険のないように使用しましょう。



黄波戸地区に消防車が配備されました。



善福寺横の防火水そう改修工事

米飯給食

子どもたちに好評

学校給食は、長い間パン・ミルク、おかずで実施されてきました。ところが最近、内容の多様化をはかり栄養を配慮した正しい米飯の食習慣を身につけさせ見地から、学校給食へ米飯が導入されつつあります。

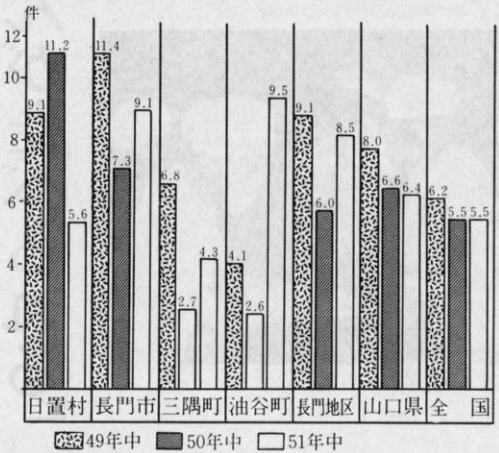
本村においても昭和四十九年度より、月一回、給食センターの平釜を利用して炊飯を開始しました。しかし施設の都合上、変りご飯が主で、児童生徒にたいへ

ん好評でしたが、設備の老朽化と調理員の作業過剰の問題などのため希望どおり実施できませんでした。

そこでこのたび「平釜による委託炊飯方式」というシステムにより、週一回の米飯給食が開始されることになりました。これはパン業者による委託炊飯で、米は小学生一人百グラム、中学生百三十グラムを使用してありますが、ほかほかのご飯が食べられるというこ

とで、残量もほとんどなく、子どもたちも米飯の日を楽しみにしています。また、ご飯を食べながら牛乳を飲むという感覚が、今の子どもたちにとって普通のものであるため、栄養的にもかなり補充できます。しかしビタミンB₁、カルシウム、動物性タンパクの落ち込みは見逃せず、適正な給食費の検討、麦の利用、給食用食器の改善、ランチルーム方式による給食など、まだまだ多くの問題が残されています。今後、これらの問題を解決し、きめの細かい魅力ある学校給食にしていきたいと思えます。

出火率 (人口1万人当りの1年間の火災発生件数)



火事が多い長門地区

火災は、八分間に一件の割合で全国のどこかで発生しています。また、長門地区では、毎年四十年前後の火災が発生し、尊い人命や財産が失われています。管内の火災の発生率は、次の表のとおりで、全国平均を上まわっています。火の元には十分気をつけましょう。

本村の消防力

出火したとき、その被害を最少限に食い止められるか否かは、その町の消防力にかかっているといえます。この消防力を表すものとして「人と機械と消防水利」があげられます。本村では団員数は百三十五人の少数精鋭で、毎年五回の技術指導、消防訓練あるいは定期的な防火査察を行ない、消防使命の達成にがんばっています。また消防ポンプ車、積載車などの消防器材の点検は毎月一、二回実施しており、万全の体制をとっています。このほかに長門市に長門地区消防本部、油谷町には消防本部西部出張所があり、「人と機械」という点では、高い防火能力を持っているといえます。

一方、防火水利の面では、現在消火栓が四ヶ所設置されています。また防火水そうは、四十m級十三ヶ所、二十m級七ヶ所の合わせて二十ヶ所を設置しており、現在狩宿地区に四十m級を建設中です。その他に四川、溝、海、湖、プール、濠、池などの水が防火に役立っています。